廿五日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月　金六十錢
□郵稅　金十五錢
□一部賣　金三錢
□廣告料一行　金六十錢
□特別一行　金九十錢
□場所指定一行　金一圓増
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五八五
福島縣平市田町十六番地
發行所　磐城毎日新聞社
發行兼編輯印刷人　森合英

何かにつけて民族の概念を振りかざすのは本來は西洋風の物の考へ方である（尾高朝雄）

閼伽井嵐

渡邊商工課長への要望

小名濱導師

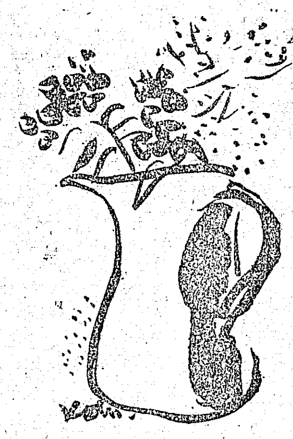
小名濱海産物工業組合の對立乱立に對し、これが調停の爲め縣當事者として渡邊商工課長の遠路御足勞を煩し調停の勞を取られた事に對して地元民の一人として感激の意を表するものである。

當日の列席者として懇談會の内容を忌憚なく批評を加へるとすれば、四枚の發起人届を全部白紙に還元して發起人を課長さんから各二名位宛指名したならば最も公平な裁きが出來たでなかつたかと思ふのである。第四位に申請した權威者揃ひとはいへ、それを骨子とした事に依り其處に釋然たるを得ない溝が殘つたではなからうか。卒直に私の意見を言ふなれば揚繰業者は生産主であり、製造は從である事は言ひ得ると思ふ。身体も心も打込んで仕事をする業者を選ぶ事は望ましき事でそれには製造を専門とする人を第一線に立て働かせ揚繰業者は後先役で澤山でないかと思ふのである。

それで一本建となつて生れる工業組合の役員は渡邊課長さん一任となつたのだから、地方の摩擦を極力避ける立場と銃後製造増産の見地から役員の指名には一段と萬全を期して貰ひたい事を一言切望してやまないのである。

原稿募集

本紙第一面の各稿を募集する奮つて種原御投稿下さい。



信仰と批判

（四）

山名隆之

ところが西洋方面の歴史を見ると、どうも少なからざる差異があるやうである。既に遠き太古に於いて東方諸國の文化が燦然たる光りを放つた。それは古代エジプトの文化を初めとして、バビロニヤ、ヘブライ、フエニキヤ、アッシリヤ、ペルシヤ等である。古代東方諸國の文化はやがて消え失せたが、その遺産は大地深く藏されて後世のわれ〳〵を驚かすのである。それは餘りにも數理的な學問的な遺産に滿ちてゐる。すべてが餘りにも緻密であつたのである。之れは確かに示唆に富める事柄である。かくてその文化はエーゲ海を渡つてギリシャ文化と交流し又間接にローマ文化にも影響した。ローマ文化はまたヨーロッパ大陸の諸方に向つて傳播された。之れをローマニゼイールンク（ローマ化）と稱する、一方アレクサンダー大王の遠征によるギリシャ文化の東方流通も行はれた。之れをヘレニズムといふ。ヘレニズムは遠くアジヤ大陸を越えて支那にも日本にも來たのであつた。かゝる素晴しい事實は確かに驚異的である。併しさうはいふものゝ西洋の歴史にも隨分迷妄混沌たる過程がある。即ち中古のキリスト教社會の狀態や尋いで封建主義の社會、專制主義の社會がさうである。

中古の宗教社會は結局宗教に幻惑された社會であり、僧侶、寺院なるものがこの幻惑を牛耳つてその魔手を從横に振ひ得たのであつた。一般民衆は概ねその下に安んずることを習慣とするものであつた。こゝに「批評」といふが如きものであつたであらうか。恐らくは無かつたであらう。苦しあつたにせとそれは公然とは許ざれず、又遂成せられもしなかつたであらう。次に封建主義なるもの之れは所謂『デイヴアイド・エンド・コントロール』といふ主旨である。「民衆を分裂させせよ、而して支配せよ」である。成程これはいゝ方法である。之れは我が國に於いても徳川氏の腕によつて見事につかはれた方法である。支那に於いては周や漢などに盛に適用された方法にである。こゝに於ては人民の意志とか自由とかは全く問題にされなかつたといつてよい、極度に愚弄したやり方である。これと同じ意味で又これと同じ時代に專制主義と稱するものがあつた。これはやはり物凄い特權主義であるそしてそれらの對象は常に可哀想な一般人民であつた。勿論批評などゝいふ萌芽さへ生ずる余裕とてなかつた、之れは支那にもあり、遺憾乍ら日本にさへあつた事柄である。それではかゝる狀態の打破はなかつたであらうかあつたのである。わが國の明治維新は我國の代表的事項である支那に於ては國民革命がそれである。西洋に於ては彼のフランス大革命がある。だがフランス革命に就いていふ前にいふべき事柄があるのである。それは文藝復興である。

木々高太郎と高田保

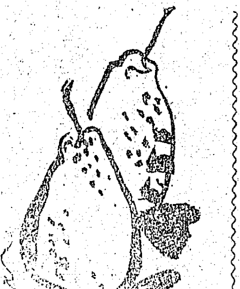
（下）

野本明男

高田保は所謂萬年青年だ。文化人の見本みたいな人だ。文壇切つての才人と云はれてゐる。何をやらせても手際がいゝ。戯曲も書けば演出もやる随筆もやれば評論も書く。さうかと思へば小説も書く脚色なぞは一晩でものにする。まことに才人高田保！然し高田保の本當の手腕を發揮するのは何と云つても演劇である。氏の新劇方面に於ける活躍は華やかなものである。小山内薫亡き後の築地小劇場が分裂して幾多の小劇團が出來上つた頃、高田保は手腕を縱横にふるつたのである。當時例のルマルクの有名な「西部戦線異狀なし」が騒がれた頃氏の脚色振りは遺憾なくその才能を發揮したものだ。今や新劇の地盤は牢固たるもので時局の波に乘つて益々必要性を加へて來た特に高田保の奮闘を望む者は私一人ばかりではないだらう。氏は現在東京日々新聞社の社友で戯曲集「人魂黄表紙」がある。

兩氏共に異色ある文藝家である。而も第一線に活躍してゐる人達である。この意味で先日講演した評論家大宅壯一よりも興味があると思つてゐる。個人主義で培はれて來た文藝家がそれを脱皮して如何に文化建設に翼賛するかは座談會で兩氏の胸をたゝき講演會で兩氏の熱辯をきいてからである。而して兩氏の持つてゐるものを抽出して以て磐城地方に清新な文化意識を盛りたてゝ行くのは磐城文化人の責務であらう。

短歌



鰐が淵にて

樋口和夫

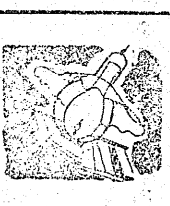
玉砂利を踏んで歩めば心よく音のするかも波荒き磯

波引けば一萬尺の海底よりしぶき上げつゝ湧き出るかも

目の前を躍り引き行く海水の波間がくれに大岩の見ゆ

海鳥の一羽ひくゝ飛び來たり波靜かなる瀞にをりたり

名にし負ふ八重の潮路や波荒ききさしにまさる鰐が淵かも



異人劍法

【64】

（[illegible]上演上映）

車谷弘

下山望東畫

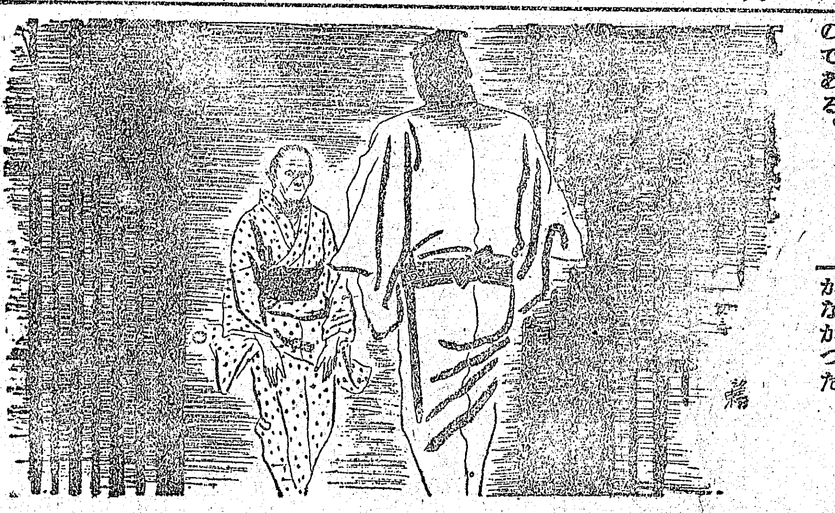
木下闇

（五）

勘太達に新九郎の一行が出發してから、もう大分たつ。今頃は蓮臺寺村の巳之助の家に毆り込んでゐるかもしれない。

そうした場面が、快よく岩太郎の眼の前にうかんで來た。

しかし、チラとそうした眼がいつか庭の植込をのんだ夜の色に吸ひつけられると、大浦の岩太郎は、そろ〳〵と落着かなかつた。足もとから追ひ立てられるやうな氣持になつた。どうしても、昨夜の小梅のことが忘れかねるのである。



しばらくぢつと思案してゐたがまるで若者のやうに胸をときめかして、やがて岩太郎は立上つた、

（そうだ、また濱田屋へ小梅を招んで……）

と年甲斐もなく想ひ出し笑ひを浮べ乍ら、乾兒もつれずたゞひとり、何げなく出ようとすると、

『今晩は、御免下さいまし』

見馴れぬ老婆が、丁寧に小腰をかがめて、大浦の家に這入つて來た、

まつたくの出合頭でいきなり出足をくじかれて、

『誰だつ』

と岩太郎が睨んだ。

ひろい土間は、がらんとして薄暗い。

岩太郎はいぶかしそうに、老婆をヂロ〳〵睨めつけながら、わけの分らない憤怒にかられて焦々した。ひと目見て町の者でない事はすぐ分つた。

老婆は近在から出て來たらしく岩太郎の大きな構へに、たゞ體を硬くするばかりで、向き合した男の逞しい眉がピク〳〵慄へてゐるのには、さらに氣がつかなかつた

『失禮さんでございますが、大浦の親分樣のお宅はこちら樣で……』

『うん』

『親分樣はおいでなさるでございませうか』

『大浦の岩太郎はこの俺だ』

と胸を叩くと、

『えつあなた樣が親分樣……』

老婆は急にベタ〳〵と腰を崩して、上り框に手をついてしまつた

『親分樣』

と、喘ぎ乍ら、岩太郎をふり仰いだ老婆の眼は、哀れみを乞ふやうにかなしく光つた。

『可怪しな婆さんだな、俺が岩太郎なら、それが一體どうしたつてんだつ』

『もし親分樣、親分樣にお願ひがございます是非お願ひ申さなくては、かうして夜分あがつたのでございます。も、もし親分樣、私は蓮臺寺村の水晶商人、巳之助の女親でございます』

『な、なんだと……』

『いつぞや伜が親分樣に亂暴を働きましたそうで、ほんとうに申譯はありませぬ。親分樣もさだめしお腹も立ちましようが私が伜に代りまして、今日はお詫びにあがつたのでございます。もし親分樣、あんな不孝な伜ではございますが、この私には親ひとり子ひとり親分樣のお怒りにふれてもし間違でもございますと私はもうこの世に何のたのしみもございません。この年寄りを哀れとおぼしめしていゝえ私はどのやうな眼にあひましてもかまひません。どうか親分樣の氣持のすむまで、私を打つなり蹴るなり御存分になすつて下さいその代り、その代りには、あの巳之を、ゆるしてやつておくんなさいまし、もし、もし親分樣……』

興亞の晴れ着　國民服
洋服は高島屋
平市二丁目通　電話三八六番

本社電話變更
電612番
磐城毎日新聞社

磐城のおみやげ品
みやま羊羹
梨羊羹
小川郷驛前　平屋賣店

大谷石を賣始めました
磐城セメント小賣指定
野内商會
平市南町　電話二一番

トンカツ
とんかつ專門の店
營業時間　午前十一時　午後十時半
一日、十七日ハ肉ナシ日ニ付キ休マセテ頂キマス
かの家
平市仲田町　電話四六五番

外科（内臓、整形）肛門科、性病科、レントゲン科
上田外科
院長　上田耕作
平市南町　電一二九

砂利小賣　販賣
◎長橋町三十番地へ貯藏所を設けました。容れ物御持參下されば小量でも小賣り致します。
◎五合以上の御注文は特に運搬も致します
神谷砂利店
平市白銀町　電話六六五番

内科　外科　小兒科　花柳病科
會田醫院
小名濱町上橫町

鑛泉と割烹
鐵道指定旅館　小瀧
電話（小名濱）一〇三番

産科、婦人科
醫學博士　五十嵐雄二
病室增築、手術室完備
平市新川町　電三六九

日本油脂株式會社　特約店
ペイント類、ボイール油、ドライヤー、防錆塗料、船底塗料、屋根塗料、黒板塗料
一手販賣
磐城水産工業株式會社
小名濱町築港内　電一四四

耳鼻科　咽喉科
增田醫院
醫學博士　增田□之
平市紺屋町　電六五一
▽入院應需△

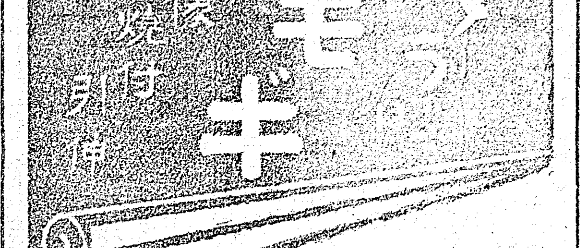
新鰹節賣出し
魚問屋へ
日本生命平代理店
鰹節製造販賣
志賀盛榮商店
平市四丁目　電二二三番

度量衡
モノサシ。マス。ハカリ
計量器
體温計。寒暖計
販賣所　資生堂
小名濱町　電四一七番

◇和文、歐文、タイプライター◇最新事務用品類◇文房具一式◇製圖並に測量用品◇謄寫板並に附屬品
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
藤森事務用器商會
平市田町銀座街　電二九六番　仙臺振替五一〇番

酒　[illegible]

三笠燒　色羊羹
味自慢　風味萬點
モナカ屋がお茶受御土産と始めました、どうぞ最中と同様御最負を願ひます
平驛前中央通　米屋最中店


カメラ　モテキ　現像　焼付　引伸
寫眞の好きな女店員募集　高給優遇す　年令十七ヨリ廿オ
カメラ　賣買　交換
平市中央通り
茂木カメラ店

祖先崇拜は
家庭繁榮の礎
佛壇、塗位牌、佛金物
豊富に取揃へてあります
是非當店へ……
佛具　造花
山光堂店
平市局通り　電話五五〇番

國民學つて防火塗裝を！
回危險に曝露する木造家屋
回手輕るに出來る防火家屋
回コロイド防火塗料の特長
大量使用の御注文並團体的御申込へは實驗的の御希望に應じます
専賣特許　太陽無機コロイド販賣店
カタログ進呈
山田文一商店
平市仲町通り　電話二六二番地

お盆が參りました
御新盆の佛具は
是非　伊東屋へ
特に御遺族の方には御努め致します
伊東屋家具店
平郵便局前

回運轉手回
高給デ優遇ス
至急募集
委細面談
希望者ハ左記へ申込マレタシ
大和炭礦營業所
平市仲町十四番地　電話六〇三番

フタバ齒科醫院
[illegible]

猪瀬市長 今廿五日正式着任
明日から登廳執務

新平市長猪瀬乙彦氏は着任挨拶廻りを終へて一旦歸京家政整理中の處今廿五日午後四時四十二分平驛着列車で正式着任した 明廿六日から登廳執務する筈で廿九日の市會へ提案する災害復舊費追加豫算案並に市參事員、各常設委員の選任等を檢討 九月廿五日を以つて任期滿了する助役の改選も附議する模樣で平市政に精通の點などを考慮に容れ現助役伊藤秀吉氏を推薦重任するものと見られてゐる

〝切實な叫び〟聽く
市常會緊張裡に終始

既報、廿三日の常會は時局下の耕馬問題や洪水後の河川改修問題等々時局が反映し市常會としては珍らしくも眞劍な討議が行なはれた質疑應答の要旨次の如し

○「道路及河川愛護ニ關スル件」遠藤心光師、吉田五平氏から希望意見があつた

○『生活改善實践要目』實践強化ニ關スル件大森勇氏から「香奠五拾錢の申合せが實行されてゐないではないか」と質問があり、川崎氏から「規定などどうでも好い、その人の氣持で適當にやれば好い」と述べ、吉田五平氏「全般的に實施されねば不都合を來たす」といへば永山勇吉氏「一旦決定したものであつてかれこれ議論の要はない。常會の性質上もつと大切な問題を討議すべきである」と應酬すれば花澤氏「御心配なく各區では現に着々實行されてゐる」と結ぶ

○「農耕馬對策ニ關スル件」増田課長の説明の後吉田庄一氏「公定價段より高くても好いから北海道から馬を買ひ入れてほしい」と思ひ切つた意見を述べれば、之に對し廿二日の郡常會の馬の事に關する討議につき蓮沼氏發言、永山勇吉氏「米の如く政府で馬を買ひ上げて配給するやうになれば好い」と主張すソノ他川崎氏等も發言、かなりの賑はひを呈した

○「その筋ニ上通事項」「新川改修促進ニ關スル件」は伊藤助役座長席から縷々陳情について説明し之に對し、松本德一氏磐城橋の急坂の切下げを、吉田寅之輔氏永山勇吉氏、杉澤の土砂崩壞を多田井笑次郎氏、「好間川をそれ〲問題として一括上通關内氏「夏井川の河床は畑よりも高くなつてゐるといふ話が昨日の郡常會に出てゐる。水害對策として新川夏井川の改修は急を要するものがある。好間川は夏井川と別個にすべきである」と述べ、その他川崎氏「市常會の要望事項と市會との關係」について質し之について伊藤助役から答辨があつた

○「時間勵行一問題の後久和平署長から防諜について二十分ばかり説明があり、最近の情勢に關し各位は充分言動を愼まれたしと希望した

在福磐中同窓會で
猪瀬市長招待

去る十八日猪瀬平市長が就任挨拶に出縣したのを機會に在福磐中同窓生は後五時から料亭三松で同窓會を開いた出席者廿一名で非常な盛會であつた なほ在福磐中同窓會は當夜福島高商教授濱島操氏（二回卒）を會長に福島無盡社員江尻功造氏（十五）を常任幹事に決定、今後は春秋二回總會を開き大いに親睦をはかることとなつた

伐材と造林調節し 樹木にも優生法
平營林署で母樹林設立

時局下の重要資材として木材の伐採數量は年毎に増加するの傾向にあり、これに伴ひ伐採と植栽の整理配給が完全に行かないと將來木材の運營に或ひは水源涵養に尠なからず障害を及ぼすことになる爲増伐に備へ平營林署では優良造林の根本策を必要とし『母樹林』の設定を計畫し、第一候補地に上小村川數屋國有林を選んで四百町歩の母樹林を選定した 新しく設定される母樹林は、優良な樹林を選んで種子を採取し、この種子で立派な苗木を作る、即ち人間に優生法を實施したやうに樹木に對しても優生法を施して不良な種子を一掃して合理的に良い木材を育てやうとするものである 平營林署が最初に選んだ上小川國有林は杉の優良林地で漸次他の樹種も選定する筈である 第一年度の採種豫定數量は約一石を豫想し、一石の種子からは五十町歩へ植林する苗木が生れる譯である

水道復舊に
旺盛な市民の勤勞方針

市上水道復舊工事は既報の如く青壯年隊に引續き去る九日から各區内會を單位として廿三日まで出場、草の内地内の導水管鋪裝其の他勤勞作業を行つたが十四日間（雨天で一日休む）の延人員三百十四名、青壯年隊の八百餘名には及ばないが一日平均二十三名に上り田町區は勤勞精神最も旺成で最高の卅五名出場 南町小料理店の女將連四名は區内の割當とは全然別個に『この時局に徒食しては申譯ない』と頬かむりにモンペ姿で出動するなど全市民の熱意には市當局も感激してゐる 草の内地内復舊工事は石垣築造其の他技術的勞工を殘すのみで市民の勤勞作業に依つて著しい進捗を見せ、今後洪水禍に備へる基礎を完了した

風水害對策
技術員會議開く

石城郡農會では今二十五日午前十時から郡内各町村技術員の參集を求め技術員會議を開催大風水害の跡作、イモチ發生後の對策、本年稻作々況など平年作確保を目標に同農會大森技師を中心に審議した提出事項次の通り

△食糧農産物増産確保施設助成金交付申請の件△青果物配給統制規則施行細則並に青果物公定價額の件△麥類配給統制規則施行細則の件△玉蜀黍縣外移出統制規則の件△昭和十七年用馬鈴薯種子の件△大風水害跡作として蕎麥作付割當の件△油菜自家搾油の件△昭和十六年秋作大小麥種子の選種及種子の豫一の件△綠肥、堆肥その他自給肥料増産の件△稻熱病その後の狀況及對策△今後氣候順調なる前提の下に本年稻作の作況見込

口碑傳説（8）

磐城民俗研究會
石城郡誌資料

岩石傳説（下）

◎太鼓石、姫石 双葉郡川内村五社山の頂に重り合つた石があるが踏むと太鼓の如き音を發する。花見遊山の時などこれを踏んで音頭を取るに至極都合がよいといふ。茨城縣關南村の彌右衛門山に二疊敷程の扁平な石があつてそこを通るとカタンコトンと機を織るやうな音がする。姫石と呼ぶ石である。

（9）足跡傳説

◎地藏石、春日石、田村將軍手跡の石、馬蹄石

地藏石は駒の足ともいひ植田町大字東田にあつて其面に地藏の姿と駒の足跡とがあつたが、鐵道線路に使用したとかで今は無い。次の手跡の石は湯本町龍ケ澤山にある牛疊敷程の石でそれに大きな手の跡を見るが坂上田村麻呂が東征の折休息して手をついた跡だといふ。下小川村柴原の山麓に形箱の如き石があり面に鹿の蹄痕がある鹿は春日神の使だから名づけて春日石といふ赤井村西小川の馬蹄石には馬の足跡が四つある。

樹木傳説
惱みの樹精
さゝや橋の由來

（1）樹木精靈傳説

◎蛇柳

内郷村白水の願成寺にある柳の枯木は、もとは近くの柳沼の畔にあつたのを後に移したので、もとの箇所には今岩柳があつて下は村道になつてゐる。この邊一帶が昔大きな沼であつた時分蛇が居つたが時々沼が急に波だつて岸の少女を引こんだり、時には柳の樹上から道行く人を驚かし氣狂にしたりした。現在も恐れて葬式の時の棺はこの柳の下を通さない。もし通れば棺が宙につり上げられるといふ。片足で樹を三遍廻ると他下から女の子の泣聲が聞えるとも言つてゐる。毎年正月二十五日になると願成寺で繩でつくつた大蛇を枯柳のうつろに卷きつけての蛇祭が村人の手によつて行はれる。

◎さとや橋

鹿島村藏持にさととよぶ美しい少女があつたが、黄昏時うたふ彼女の聲によせられて毎夜同じ時刻に訪ねて來る不思議な若者があつた。丁度その頃村人が藏持三島八幡社境内の大榎を伐倒して少女の家の側の橋をかけることになつた。若者は會ふのは今宵限りと悲しさうに嘆いた。さて人々が彼の大木を伐つたが血が盛んに流れこれを運ばうとしたが微動だもしない。困却した村人はうたふ事の上手なさとを呼び來つて歌をうたはせ音頭を取らせた處木は自ら動き出して安々と目的地に達し難なく工事を終へる事が出來た。今にさとや橋と呼んでゐる。此邊に片葉の葦がある。この傳説の少女は或は寡婦とも語られ樹は神白村梵天山の欅とも言はれてゐる」

◎日の出松と安壽姫

双葉郡廣野村下淺見川にある日の出松は血の出松とも云つて、昔岩城判官正道が叛者の爲に殺され夫人は一男一女をつれて漂浪し海賊の爲に二子を奪はれ後遂に此地に死んだといふが、多くの傳承は此處に死んだのを子供の安壽姫の事にしてゐる。母や弟に別れ〲になつた姫が惡者の手から逃れて飢と疲れに此處に倒れてそのまゝ世を去つた。薪とりの村の老人がこれを見て憐み人々とはかつて懇に體を埋め、松を植ゑ祠を建てた。嘗て或里人がこの木を伐らうとしたら切口から血が流れ出したので驚いて氣を失つたが、正氣に復した時にはもと通り切跡も無くなつて居た。血の出松が訛つて日の出松となつたのであらうか、此處から朝日がよく見える。又村人は次の如くにも傳へて居る。岩城判官の館が沒落し親子散り〲になり子供二人は山莊太夫につれ行かれた。乳母はこれを悲しんで廣野沖を通る時二人の子を助けんと身を海中に投じて蛇體となり、下淺見川の海岸に上つて待ち受けたが助ける事が出來なかつた。今の姥嶽明神はかの乳母をまつれるものといふ。昔はこの蛇は常にかの松の木にすんでゐたといひ、嘗て此の松を伐つたが伐られても〲あとから〲芽が出て現在の如くに茂つてゐる

◎血櫻

草野村絹谷青瀧の堤に大蛇が住み、水門をふさいで灌漑の用水を出さなかつたので或若者が水中に入つてこれを斬殺し死體を池畔に埋めた。蛇を退治した時血しぶきが池畔の櫻の木にもかゝつたが、これが血櫻で枝幹何れの箇所を切つても血の如きものが吹出る。一年三回花が咲くがその都度花の色が異るさうである。

秋職 揚繰出漁
個人經營有終を目差す

揚繰漁業の秋職出漁期を直前に控へて小名濱港は出漁準備に忙殺されてゐるが逸早く大勝丸、大勇丸、壽和丸の三統は一兩日前既に出漁し舊盆前は近接を漁する事となりその他の漁船は舊盆濟一勢に出漁し、鹽釜を根城として個人經營の最終出漁を有意義にと船主も漁夫も三、五年分位を今年一年で漁獲しようと爆發しそうな張切り方である

新盆新体制
久保町が卒先して實踐

久保町今年の新盆が十五戸の多きに上つてゐるため、同町内會の新盆家族が永山市議の發議で去る十日『新盆會』を開き、供物や提灯の拜辭や共同供養所を設けてジャンガラ念佛なども供養所で……と新盆の新体制を先づ實踐することに申合せ區内會全戸へ廻狀を廻した

1、供物及提灯等一切の供物を拜辭すること

2、定紋付の提灯は一戸一對とし、大きさは直徑一尺二寸、長さ三尺五寸を限度とす

3、阿彌陀堂前（町内）へ共同供養所を設けジャンガラ念佛なども共處で行つて貰ふ

4、燒香時間は午後十一時限りとする

尚親戚等が知らずに提灯を贈たつ場合共同供養所へ寄贈すること

小名漁組
事務所增築

小名濱漁業組合では出荷統制組合事務を掌るやうになつて以來、急激に事務員の增加を見る爲めに現組合樓上では著しき狹溢を告げ、爲めに工費約五千圓で南側の九尺の增築を見る事となり近く着手するが、これにより舊組合の面目は一新される事になる

ホツキ貝
大量冷凍

小名濱町日水冷凍工場では縣漁聯の斡旋で相馬郡福浦村よりホツキ貝を購入してゐるが隔日貨物自動車一台宛剝身で五六百貫を冷凍してゐるが、この冷凍品は不漁時に備へる縣民への配給品とする縣漁聯の親心でホツキ貝の大量冷凍は今次が初めてゞある

チブス收容

平市材木町三十四大工職和田金作（四二）同人次女幸子（五）の兩名は昨二十四日腸チブスと決定。同日隔離したがこれで隔離病舍の傳染病患者は十二名である

三社合同社告

今般下名各社は時局の重大性に鑑み國策に順應し茲に「福島民報」に合流合同して一縣一紙の實現を期し、更に陣容を整備強化し以て新聞報國の使命達成に邁進する事と相成り候間官民各位の一段の御支援御協力を相仰ぎ度御披露旁此段謹告仕候

昭和十六年八月二十五日

會津新聞社
磐城毎日新聞社
福島民報社

磐城夕刊發行社告

今回本社は『磐城毎日新聞』を合流合同し平市に於て『福島民報磐城夕刊』を九月一日より發行致候間磐城毎日新聞同樣御愛讀賜り度候

尚『福島民報』は九月一日より平支社に於ても販賣致す事に相成り候間『磐城夕刊』と併せて御購讀願上候

昭和十六年八月二十五日

福島民報社

金で奉公
即賣申込案外不振

戰時物資活用協會では既報の如く昨二十四日から平市公會堂に金銀白金即金買上を行つてゐるが初日の二十四日買受け數五十件、金額七百圓で今二十五日正午現在で二十件、四百圓であるがうち金が七八割を占め割合賣却するものが尠ない 賣却品の主なるものは相變らず指輪、時計側、古錢、銀杯等で純金（一匁）十四圓四十三錢七厘五毛、純銀十七錢五厘五毛

白金二十六圓二錢五厘明二十六日迄で賣上げする

逃走の怪青年
心臓痲痺を起し死亡

自稱東京市城東區龜戸町一町目の三住所不定無職佐藤政好（三二）は二十三日午後八時ごろ平署を訪れ

財布を落したので家へ帰る汽車賃がない質に入れたいものがあるのだが証明をお願します

と申出たので同署で更に突込んで事情を聞くと曖昧な事を云ふので不審に思ひ突込んで取調べた結果市内鎌田町遊廓に登樓したことも判り嚴重追究したところ警官の隙を狙つて逃走したので同署員が追跡したが翌二十四日朝方に至つて平商附近市内童根町地内の灌漑用水路に溺死体となつて通行人に發見された、檢視の結果あはてゝ用水路に飛込んだためか心臓痲痺と判明した

文藝運動
辰野氏も加り盛況豫想
講演と座談會愈々あす開く

文藝銃後講演會は愈々明廿六日午後七時から市公會堂に開催されるが講師は既報の高田保木々高太郎兩氏の他齋藤瀏氏に代つて辰野九紫氏が來る事になつた なほ主催の日本文藝家協會は文藝春秋社内にあり東日紙が之を後援して居るもので、午後二時半から常陽銀行樓上で行はれる座談會は磐城文化協會が主催をなすものである、平地方としてはかやうな文藝家が三人も一緒に來て講演する事は珍らしい事なので明晩は盛況が豫想されてゐる 辰野九紫氏は本名小堀龍二、東大法科の出身、ユーモア作家で『赤門情話』『サラリーマン講座』等の著書がある

姓名學の權威
富士原成光師來平

日本姓名學會長富士原成光師が北海道出張の歸途を紺屋町鵜沼孝昌氏の懇望に依つて今二十五日來平、明廿六日から三日間に亘つて驛前甲陽館で一般鑑定に應ずる事になつた、右について鵜沼氏は語る『富士原成光氏は現在日本姓名學會長として多忙な中を幸ひ北海道出張の歸途立寄て貰つたのです、此の機會を利して三日間だけ一般の鑑定に應じて戴く事になりました、師は姓名學の泰斗として實に百發百中如何なる困難なる問題も即座に解決する名人で透徹した頭腦、科學的な解答は依賴者に安心を與へ不幸な人は勿論今日幸福なる人と雖も明日の運勢を知る必要があらうと思ふ

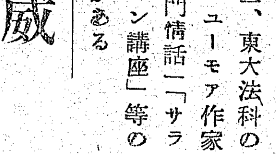
横川で溺死

平市櫻町一居住永山定吉四男永山清喜少年（十一）は昨二十四日母ナカさんに連られて大浦村上仁井田新舞子横川の川口附近で水泳中午後零時頃深みに足を滑らし行方不明と成つた爲捜査の結果午後一時頃溺死体となつて發見せられた、四倉署から白石部長檢死の上死体は家族に引渡した

遺族記章
四倉町の傳達式

四倉役場では町内軍人遺族記章の傳達式を廿三日擧行した 諸橋茂子（仲町）鈴木倉治（本町）通野カツ（新町）渡邊ミノ（〃）川崎三次郎（〃）

今晩のラジオ



（二十五日夜の部）

◆六・〇〇（AK）唱歌と合奏 東京旭校兒童（HK）「鼬鼠の話」森田稔△シンブン

◆六・三〇（AK）新日本音樂「夏のわかれ」川本晴朗、外（HK）管絃樂（一）行進曲「祝婚式」（メンデルスゾーン作曲）外、東化交響樂團

◆七・二〇 ラジオ國民讀本「立ち上る産業戰士」

◆七・三〇 歌謠物語「妹のうた」（眞杉靜枝作）花井蘭子、宮下晴子

◆七・五〇 防空讀本「防空所見」海軍中佐古橋才次郎

◆八・〇〇 義太夫「近頃河原の達引」（堀川猿廻の段）豐竹古靱太夫、鶴澤淸六

◆八・四〇 時局談話「日本の國力を語る」座談會（司會）男爵大藏公望、企畫院第二部長柏原兵太郎、厚生省勞働局長持永義夫、食糧管理局長官湯河元威

天氣豫報

今晩 南東の風一時曇り模様

明日 南東の風晴れたり曇つたり

（二十六日）滿潮 前六、〇〇 後六、三三 干潮 前〇、三三 後……

姓名と運命

古語に「名は體を顯す」は實に千古の名言なり

鑑定項目

體力 肉体（健康、不健康、相貌）疾病（病根、病勢、病名）

活動 職業（適業、不適業）天運（成功、不成功、災厄）

血緣 家族運（父母、夫婦、子供有無）男女緣（氣質、相性、相剋、婚期方位）に關する一切

鑑定料 壹名壹圓也（名を見るのみ）銀行、會社名、商號、家號、會名、雅號、藝名、養子、養女、姓名、生兒名

選名料及鑑定書作成料 一金五圓也（名前を取りかへる各命名）

期日 八月廿六、七、八、三日間

鑑定者 日本姓名學會長 富士原成光師

場所 平驛前（電話一四八） 甲陽館

謹告

拙家新盆に相當り候處時局柄提灯其他の供物等一切堅く御辭退致度乍畧儀紙上を以て此段御願申上候

平市久保町 添原昌言
〃 柴田良一
〃 古田部胤政
〃 大竹榮一
〃 太田ツネ
〃 橋本正雄
〃 永山勇吉

佛壇と佛具一切

各種豐富に陳列致しました

御用命は （本）丸ほん

平市三丁目 電三五九

【女店員廿才前後の方至急入用】

内勤女事務員至急招聘

希望者履歷書持參面談

女學校卒業程度十七才以上二十五迄

野村生命支部

南町壹番地 電話七四八番